

# 宇都宮市中心市街地活性化基本計画の概要

## 1 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

【1頁】

### 1.市の概要【1頁】

#### (1)市の概況【1頁】

##### ①位置および地勢【1頁】

□東京から北に100kmに位置し、面積は約417km<sup>2</sup>

#### (2)市の特性【2頁】

##### ①交通の要衝【2頁】

□広域交通網(東北新幹線, 東北自動車道や北関東自動車道)が市内を貫く  
□3環状12放射道路が一部を残して供用済み

##### ②高い求心力【3頁】

□宇都宮都市圏の人口は約112万人で、栃木県総人口の約55%を占める

##### ③市街地の肥大化【3頁】

□DID面積は、昭和45年の約2.6倍に広がる



### 2.中心市街地の概況【4頁】

#### (1)中心市街地の現状分析【4頁】

##### ①地域資源【4頁】

□二荒山神社や宇都宮城址公園, カトリック松が峰教会等の歴史的・文化的資源が点在  
□餃子やカクテル, ジャズ等の観光資源  
□宇都宮餃子祭りやミヤジャズイン等のイベントを実施  
□観光客入込数は約1,400万人で推移

##### ②人口等の動向【7頁】

□人口は8,722(H11)人から7,966人(H21)に減少  
□高齢化率は24.8%(H11)から29.0%(H21)に増加

##### ③市街地整備等【9頁】

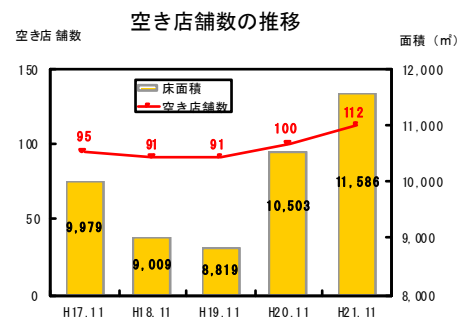
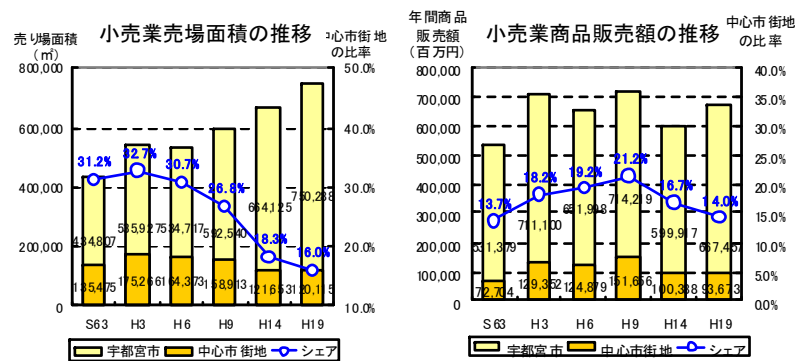
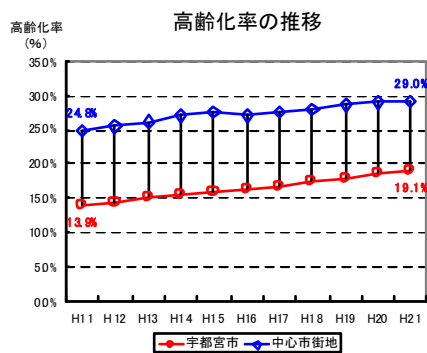
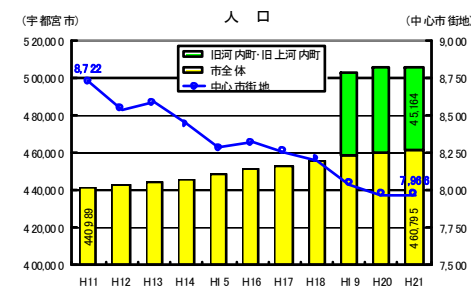
□戦災復興土地区画整理事業により約144haを整備  
□宇都宮駅西口や二荒山神社周辺で市街地再開発事業を完了・実施中

##### ④都市機能関連【11頁】

□県庁や市役所, 大学, 病院等の公共公益施設が立地

##### ⑤商業・業務等【12頁】

□ロードサイド型の大規模集客施設が数多く郊外に立地  
□売場面積は約17.5万m<sup>2</sup>(H3)から約12万m<sup>2</sup>(H19), 全市におけるシェアは32.7%(H3)から16.0%(H19)に減少  
□商品販売額は約1,294億円(H3)から約937億円(H19)に減少, シェアは約18.2%(H3)から14.0%(H19)に減少  
□空き店舗は100件前後で推移し, 慢性的に存在する状況  
□事業所数は約3,700(H8)から約2,800(H18)に減少

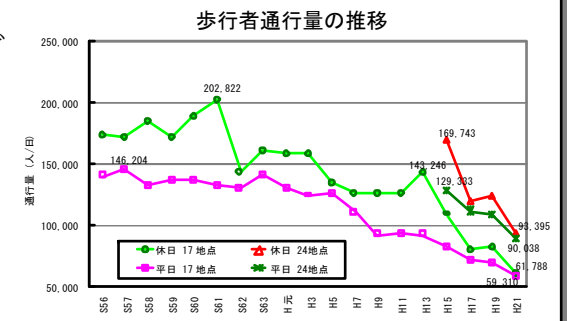


### ⑥歩行者流動【18頁】

□歩行者通行量は約20万人(S61)から約6万人(H21)に減少

### ⑦交通等の動向【20頁】

□鉄道利用者は、JR宇都宮駅が近年増加し約7.2万人、東武宇都宮駅が年々減少し約1.1万人  
□路線バスの利用者数は2,570万人(H7)から1,530万人(H19)に減少  
□年間ガソリン使用量は、655ℓ/世帯と都道府県庁所在地で最も高い(47都市平均415ℓ/世帯)  
□レンタサイクルの利用者数は年々増加



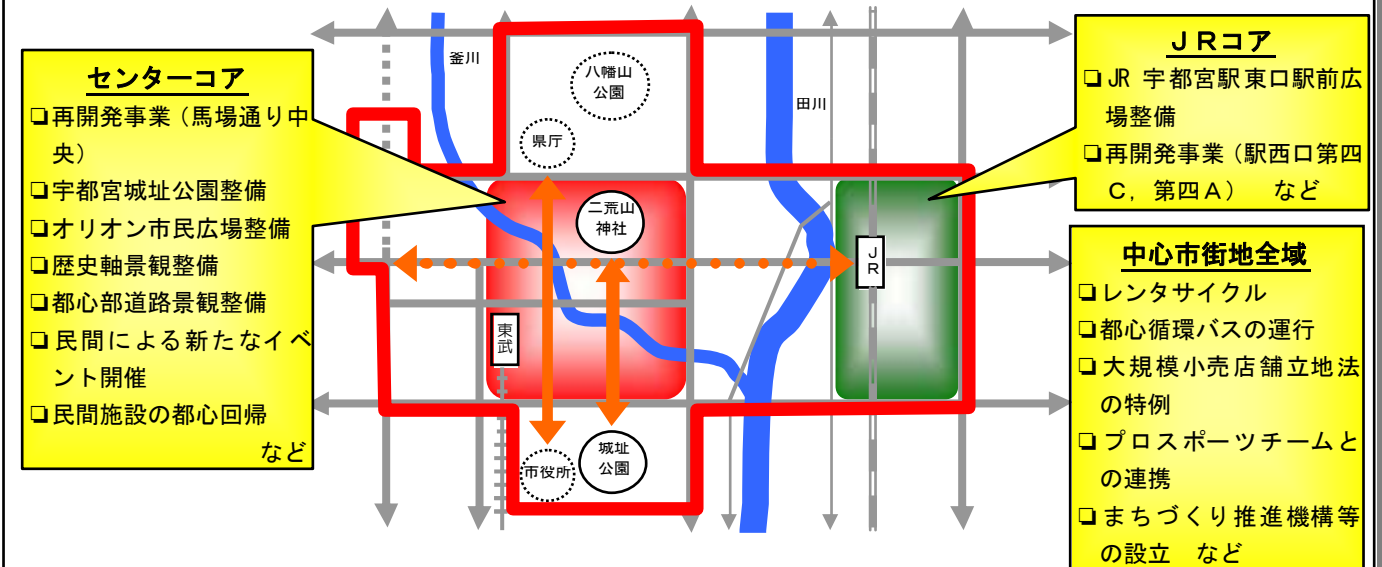
### (2)市民アンケート【24頁】

□約8割が「賑わいを感じない」、約半数が「愛着を感じない」  
□主な目的は「買い物」  
□主な交通手段は「自家用車」であるが、若年層や高齢者は「路線バス」の利用率が高い  
□活性化が必要な地域は「オリオン通りやユニオン通り周辺」及び「大通り沿道」  
□「安全・安心」や「快適さ」を求めている  
□トイレ等の休憩所の設置や歩きやすい環境の整備, 中心市街地へのアクセス強化を求めている

### 3.これまでの取組と検証【35頁】

#### (1)これまでの取組【35頁】

□「都心部グランドデザイン」(H14.8)において、センターコアとJRコアの2核, 南北都心軸と東西都心軸の2軸による都市の骨格構造の形成を推進【2核2軸構想】  
□「中核都市宇都宮にふさわしい賑わいと高次の都市機能を備えた多様性のあるまち」を目標に, 市街地再開発事業, オリオン市民広場や宇都宮城址公園等の拠点広場整備, 歩行者や自転車利用環境の向上策を実施



#### (2)中心市街地の課題【43頁】

【衰退要因】①モータリゼーションの進展による都市の肥大化  
②郊外大規模集客施設等の影響による中心商業地の求心力低下  
③まちの没個性化

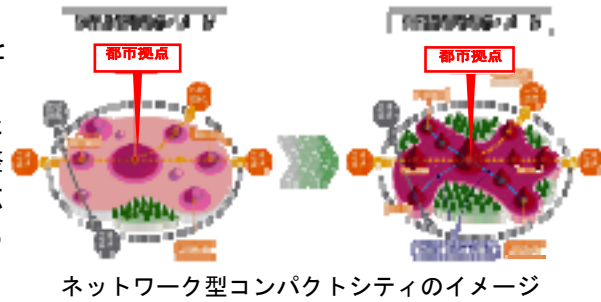
【課題】①賑わいの源となる居住人口と来街者の増加 ②過度な自動車依存からの脱却  
③中心商業地の再生 ④地域資源の活用による「個性」の創出



# 宇都宮市中心市街地活性化基本計画の概要

## ③ 中心市街地活性化の位置付け【46頁】

- 将来の都市の姿として「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」を掲げ、中心市街地を、その中枢となる「都市拠点」に位置付ける【第5次総合計画】
- 複合的で高度な土地利用を促進し、歴史・文化を踏まえた風格と魅力ある空間形成や人と環境に優しい交通環境の整備、多様なニーズに応じた生活環境の形成などにより、広域的に、人、もの、情報が集積・交流する本市の顔となるまちづくりを行う【都市計画マスタープラン】



## ④ 中心市街地活性化の基本方針【51頁】

- 方針1** 昼夜ともに賑わうまちづくり
- 方針2** 多様な移動手段の確保と回遊できるまちづくり
- 方針3** 中心市街地ならではの「資源」を生かしたまちづくり
- 方針4** 多様な主体によるまちづくり



## 4～8 中心市街地の活性化のための事業

【86頁】

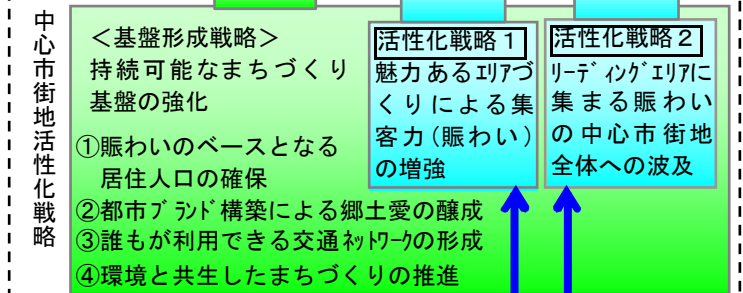
- 市街地の整備改善のための事業** 小幡・清住地区整備事業、都心部道路景観整備事業、宇都宮駅東口地区整備事業、釜川プロムナード活用事業、魅力ある景観づくり事業 など
- 都市福祉施設を整備する事業** 中央生涯学習センター改修事業、歴史・文化財活用ネットワーク事業、中心市街地における文化振興事業
- 居住環境の向上のための事業** 若年夫婦世帯家賃補助、宇都宮馬場通り西地区市街地再開発事業、宇都宮駅西口第四B地区市街地再開発事業、地域優良賃貸住宅建設費の上乗せ補助
- 商業の活性化のための事業** オリオン通り商店街振興組合未来創生事業、大型映像装置を活用した賑わい創出事業、おもてなし休憩施設設置事業、中心商店街活性化支援事業、冬の夜間景観賑わい創出事業「宮カフェ」運営事業 など
- 上記と一体的に推進する事業** 中心市街地活性化ソフト事業、Uビキスタウン推進事業、自転車利用・活用促進事業、公共交通利用促進事業、「自転車のまち宇都宮」発信事業、市民提案によるまちづくり協働事業、「おもてなし運動」推進事業 など

## 3 中心市街地の活性化の目標

【61頁】

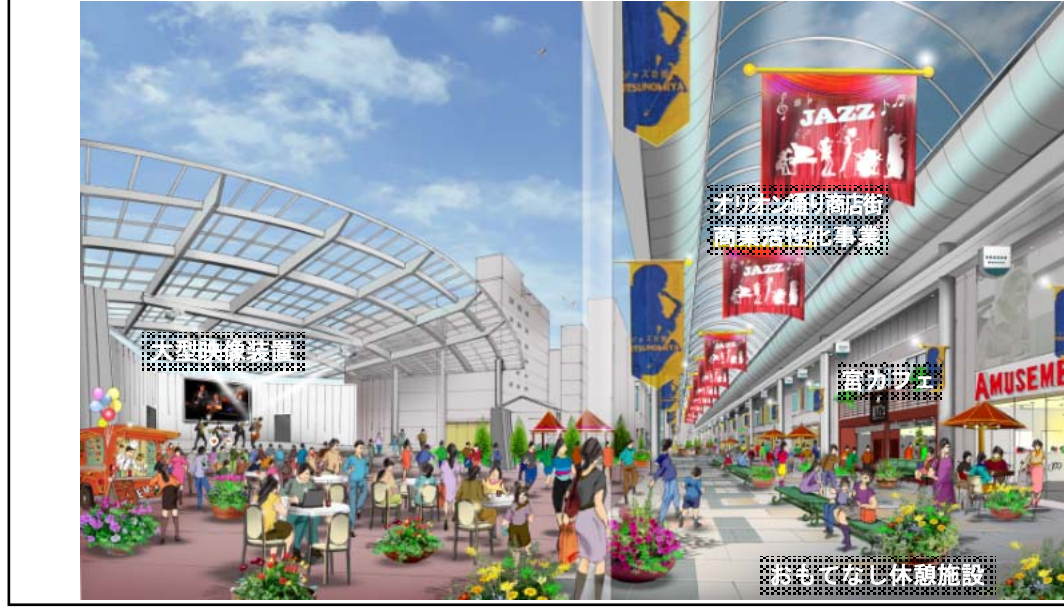
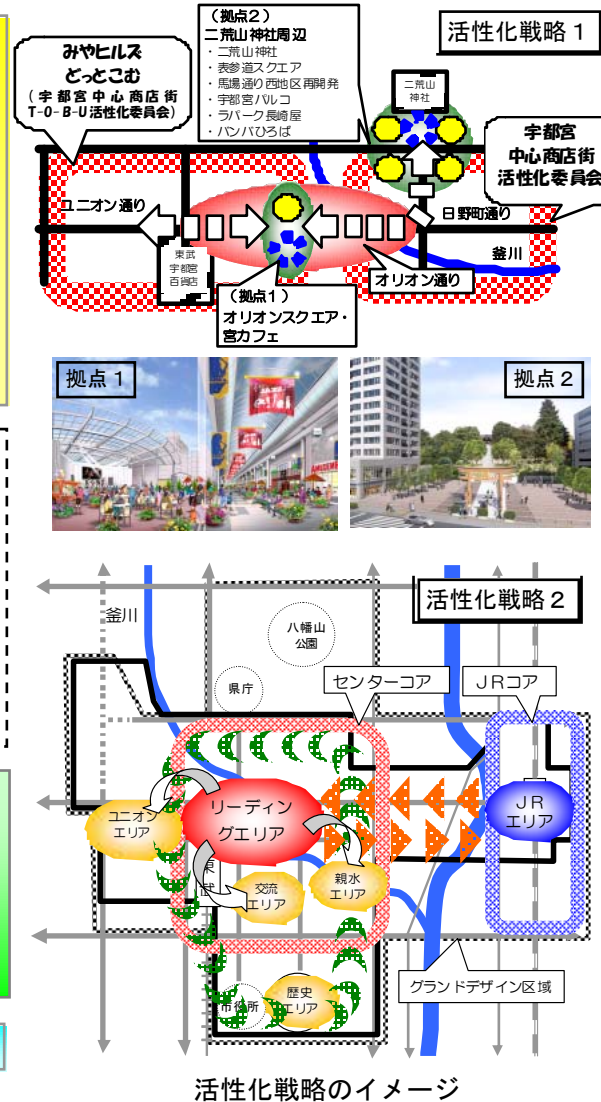
**将来像** 宇都宮ならではの「楽しさ」を味わう中心市街地  
～市民が愛する・誇れるまちなかへ～

- 目標1：商業地が様々な顔を持つ賑わいのあるまち～集客～**  
指標：店舗・事業所数  
目標値：2,794事業所（H18）⇨ 2,811事業所（H26）
- 目標2：様々な人々が行き交うまち～回遊～**  
指標：歩行者・自転車通行量  
目標値：46,987人（H21）⇨ 49,300人（H26）
- 目標3：便利で快適な住みたいまち～居住～**  
指標：居住人口（夜間人口）  
目標値：7,966人（H21）⇨ 8,700人（H26）



- 【本市における都市空間形成】**  
ネットワーク型コンパクトシティの構築  
① 土地利用の適正化  
② 拠点化の促進  
③ ネットワーク化の促進
- 【中心市街地活性化の課題】**  
① 賑わいの源となる居住人口と来街者の増加  
② 過度な自動車依存からの脱却  
③ 中心商業地の再生  
④ 地域資源の活用による「個性」の創出

中心市街地の現状分析・市民ニーズ・これまでの取組評価



## 9 事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項

【110頁】

- 議会・行政**
  - 都市基盤整備調査特別委員会（宇都宮市議会）
  - 宇都宮市中心市街地活性化基本計画策定委員会（委員長：総合政策部次長）
  - 宇都宮市中心市街地活性化基本計画策定作業部会（部会長：地域政策室長）  
（公共交通利用促進分科会、都市基盤整備分科会、経済活力向上分科会）
- 民間**
  - 宇都宮市中心市街地活性化協議会（宇都宮まちづくり推進機構、宇都宮商工会議所 など）
  - 宇都宮まちづくり推進機構
  - JR宇都宮駅西口地区まちづくり勉強会
  - 宇都宮ブランド推進協議会
  - 宇都宮市モビリティ・マネジメント実行委員会
  - 大通り景観づくり推進協議会

## 10 都市機能の集積の促進を図るための措置

【125頁】

- ① 「ネットワーク型コンパクトシティ」の中核となる「都市拠点」として拠点化を促進
- ② ネットワーク型コンパクトシティの実現に向け、都市機能の無秩序な拡散を抑制し、都市の既存ストックを有効活用しながら拠点への都市機能の集積を図るため、都市計画制度を活用し都市機能の適正な立地誘導を図る。



# 事業及び措置の実施箇所

